

川口市立芝中学校 寄贈記念樹



桜「太白」

イギリスの桜^{さくらもり}守、コリングウッド・イングラムと
かわぐちししゅっしん さくらけんきゅうか ふなつせいさく さくら ものがたり
川口市出身の桜^{さくらもり}研究家、船津静作との桜^{さくら}の物語



イングラムが^{さつえい}撮影した^{ふなつせいさく}船津静作



^{ばんねん}晩年のイングラム

川口市立芝中学校は、開校当初に植えられた桜が関係者や地域に愛されてきました。その桜も樹齢70年を超え、少しずつ植え替えが始まっています。そこで、最近まで桜が植わっていた正門脇に、由緒ある桜を新たなシンボルとして植樹することとなりました。

長年、正門で子どもたちを見守ってきた桜に感謝を捧げ、新たに、イギリスから地球を半周し、再び日本で復活を遂げた桜を迎え入れます。

ここに、芝中学校に植樹される「太白」という桜のことについて、また、船津静作氏についてささやかなパンフレットを作成しました。

「太白」が芝中学校に来るまで、芝地区連合町会 相談役 伊澤 隆男 様のご縁をつないでくださり、桜研究家 樋口 恵一 様のご自宅で大切に育てていただきました。



川口市立芝中学校の正門脇に植樹される、「太白」は、英国の桜研究家イングラムの庭園にあった桜です。1926年（大正15年）に彼が来日した時に船津静作所蔵の桜の絵をみて自宅の庭にある桜と同じものであると認めました。当時、この桜は日本では絶滅してしまったとされていました。1932年（昭和7年）に京都の香山益彦のもとにイングラムから接ぎ穂が送られてきました。この接ぎ穂は京都の園芸家、第14代佐野藤右衛門が受継ぎ、これを育成したものが元公爵 鷹司信輔により「太白」と命名されました。（「財団法人日本花の会」HPの「太白」についての説明文より）

「船津静作と桜の物語」

この度、川口市立芝中学校には、川口市出身の桜の研究家である船津静作と英国の桜研究家コリングウッド・イングラムとの縁につながる「太白」が植樹されることになりました。船津静作については、この「太白」についての物語の他に、明治時代の末に日米友好のためにワシントンに贈られた桜についての物語があります。

この機会に船津静作と、コリングウッド・イングラムについてご紹介します。

船津静作は、1984年（明治7年）に東京府南足立郡沼田村の分家の船津家に養子に入りました。1886年（明治19年）、船津静作が29歳のとき、当時の沼田村の戸長であった清水謙吾の発案で荒川堤の補修工事に際して、堤上に桜を植えることになりました。桜は、駒込傳中の植木屋高木孫右衛門の保存していた里桜の名品を植えることになりました。船津静作はこの作業に率先して加わり、植樹総数3225本、現在の川口市のはずれあたりから足立区西新井にかけて里桜の大並木ができあがりました。この桜並木の特色は、里桜の名品（78品種）を集めたということと、五色桜の名の通り、他に見られない特色をもっていました。

船津静作は荒川堤の桜並木ができから、熱心にその種別、分類、研究を行い、明治36年に初めて桜博士 三好 学にめぐり合っ、その桜人生が花開くこととなりました。

船津静作の功勞の一つに、アメリカ合衆国ワシントンへの桜の寄贈があります。このとき、荒川堤の桜から採取した桜の苗が、1912年（明治45年）3月にワシントンのポトマック川の河畔に植樹されました。船津静作はワシントンの桜の話の影の功勞者として伝えられることとなります。その後、桜の苗の育成には、川口市峯の松本伝太郎や安行原の清水亀之助が船津静作の協力者となりました。



船津静作

寄贈した桜の品種と本数

染井吉野	1,800本	白雪	130本	御車還	20本	有明	100本
福祿寿	50本	関山	350本	普賢象	120本	駿河台	50本
御衣黄	20本	上旬	80本	滝旬	140本	一葉	160本
				計3,020本			

「イギリスの桜守 コリングウッド・イングラム」

コリングウッド・イングラムは昭和の初め、日本で絶滅したと見られる品種の「太白」を里帰りさせた人物です。

イングラムは、新しい家に引っ越したとき、その庭に植えられていた桜の太木2本が彼の目にとまりました。その美しさに感銘を受けたイングラムは、ヨーロッパではまだ知られていない日本の桜を収集して庭に植樹し、研究しようと思い立ちました。

その後、猛烈な集中力と実行力で桜を収集。日本や米国から多数の品種を輸入し、知人・友人から譲り受けるなどして集めた結果、7年後には100種類を超すコレクションをもつ壮大な「桜園」が誕生しました。

中でも、今回、川口市立芝中学校に植樹される「太白」は大輪一重の品種で、純白の花は直径が5〜6センチもあり、優雅でひそやかな美しさを持ち、イングラムのお気に入りの桜でした。

イギリスで可能な限りの桜を入手したイングラムは、より珍しい桜を求めて1926年（大正15年）、日本へ「桜行脚」に行くことを決意しました。

その桜行脚のとき、イングラムは東京の五色桜の桜守、舩津静作と出会い、太白の絶滅を知らされました。彼は太白がベネンドンの自分の庭園にあることを舩津氏に知らせ、里帰りさせることを約束したのです。

帰国後の1927年（昭和2年）、イングラムは太白の穂木を採取し、京都の桜守、第14代佐野藤右衛門に船で送りましたが、穂木は枯れてしまい、失敗。

当時は飛行機もなく、イギリスから長い月日をかけて、大海原を遥々、船で運ぶしかなかったのです。その後、5年間の試行錯誤の挑戦を経て、穂木をジャガイモに突き刺して、シベリア鉄道経由で送ったところ、成功したのです。

1932年（昭和7年）に京都御室の香山益彦のもとに穂木を送り、これを第15代佐野藤右衛門が接ぎ木して、太白は祖国日本に甦りました。

今回、川口市立芝中学校に植樹する「太白」

は、イギリスから送られた原木の3代目から

16代目佐野藤右衛門が採取した穂木を接ぎ木した、直系の「太白」です。



イギリスのコリングウッド・イングラムさんの^{やしき}屋敷



↑ 1940^{ねんごう}年頃の^{やしき}コリングウッドさんの屋敷

The Grange (ザ・グレンジ) ⇒
コリングウッドさんの^{やしき}屋敷 (ザ・グレンジ) の^{もん}門



イングラムさんの^{やしき}屋敷
にある、日本に^{あづか}贈られた
「^{たいはく}太白」の^{げんぼく}原木

チェリー・イングラム ^{にほん}日本の^{さくら}桜を救ったイギリス人 ^{あべな}阿部菜穂子 ^{いわなみしよてん}岩波書店 2016^{ねん}年より^{ばっすい}抜粋

^{とうきようしんぶん}東京新聞 (2017^{ねん}年4^{がつ}月4^{にち}日朝^{にちようかん}刊) より